

2-2. 伊勢市

1. 取組の全体像

1. 自治体の概要

①	自治体名	伊勢市	②	担当部局名	健康福祉部 福祉生活相談センター
③	人口	121,770(人) <令和4年12月末時点>			
④	自治体内連携	庁内連携部局 ※会議体、情報共有	デジタル政策課、広報広聴課、市民交流課、環境課、健康課、高齢・障がい福祉課、生活支援課、子育て応援課、農林水産課、交通政策課、住宅政策課、社会教育課、商工労政課、職員課 ・ 庁内各課に対し、関係する事業・NPO 団体候補の情報提供を横断的に依頼したうえで、「伊勢市多分野協働プラットフォーム」(以下「PF」)を設立した。PF では情報共有を実施し、今後の方向性、支援事業の実施手法などについて議論していく。		

2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿

①	従前の取組	・ 令和3年4月より福祉生活相談センターを設置し、福祉に関する相談を総合的に受け止める体制を構築。伊勢市社会福祉協議会が運営する「生活サポートセンターあゆみ」や、NPO 法人「いせコンビネット」などと連携し、重層的支援体制整備事業において就労支援等を実施してきた。		
	※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	調査	以前から取り組んでいたこと	PF構築に向けて取り組んだこと
	構想・方針	・ 民生委員等へのアンケート調査 ・ コロナ禍における生活福祉資金の特例貸付の対象者を分析 ・ 複雑・複合化する生活課題等に対応するための分野横断的な多機関協働の形成	・ —	・ —
	体制	・ 福祉生活相談センターが中心となり、様々な相談を受け入れ	・ 計2回の準備会議の開催(令和4年11月、12月)	・ —
②	実現したい状態	・ 働きづらさを抱えた人を発見した際に、庁内はもちろん、庁外も含め連携し、適切な支援につながる状態 ・ 働きづらさを抱えた人に対して、社会参加のきっかけづくりから就労までスモールステップかつオーダーメイドの支援が可能となっている状態 ・ 庁内外の様々な機関が連携・協働し、孤独・孤立に係る様々な困難を抱えた人に分野横断的な支援を実施できる状態		
	※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境			

3. 地方版連携 PF における連携体制

①	連携先支援団体名	・ 伊勢市社会福祉協議会、NPO 法人いせコンビネット など 選出・打診時の工夫 ・ 従前の関係性がある、働きづらさを抱えた人への支援が可能な団体を選出	協議体(既設/新設)	伊勢市多分野協働プラットフォーム新設
②	支援団体との連携内容	・ 働きづらさを抱えた人に対する就労支援(ひきこもりの人等、社会参加自体が難しい人が多くいる中で、居場所・職場見学・就労体験等をスモールステップで提供)		

4. PF 連携による価値や工夫_考え方

- PF で取り組む要点を①周知・啓発②社会参加③就労支援とし、分野横断的な庁内外協働の新たな支援策の創出を目指す。一気に就労に至らずとも、支援者に寄り添い、社会参加・職場見学・就労体験をスモールステップで提供することを重視する。
- 「障がい」「ひきこもり」といった既存の支援対象の枠組みを「働きづらさを抱えた人」へと広げ、支援を必要とする人が自ら声を上げやすくする環境を整備する。
- PF 設立段階においては、就労支援に関する事業や連携可能な NPO について庁内のあらゆる関係課がアイデアを出し合い情報を棚卸した。

詳細情報：当該自治体における従前の取組

【地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム準備会】

- ・ プラットフォーム新設へ向けた準備会を2回にわたって開催した。
 - 第1回（令和4年11月7日）
 - ◇ 庁内関係課の係長級を集めて以下のシートを共有し、既存の取組を整理した。担当課のみでは把握できていなかった情報を漏れなく把握すると共に、それらの活用方法・新たな取組のアイデアを募った。
 - ◇ 内閣官房孤独・孤立対策担当室参事官補佐：高橋 範充氏（オンライン）より趣旨をご説明頂いたことで、取組機運醸成を図った。
 - 第2回（令和4年12月22日）
 - ◇ 情報交換・共有シートからの情報を基に情報を整理した。
 - ◇ 各課より連携可能性のある事業やNPO法人について説明した。それらの情報を踏まえ、設立予定のプラットフォームのあり方について議論した。

図表 既存取組整理のための情報交換・共有シート

「地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム準備会」情報交換・共有シート

【課名： _____】

事業名等	担当課	新・既	種別	対象者	形態	委託先	事業内容

※「働きづらさを抱えた人」に対して、「周知・啓発」「社会参加」「就労支援」「その他」で、既存事業の活用や新規事業として実施できそうな取組みを記載してください。
 ※直接的なもの以外（間接的だが結果的に支援につながるもの等）も記載してください。
 ※既存事業の場合、チラシや資料等があれば添付してください。
 ※準備会メンバー以外の課等で、該当しそうな事業等があれば記載してください。（※情報元は言いません）

NPO法人名	NPO法人の概要	担当課	形態	事業名	事業内容

※各課で事業委託等で関わりのあるNPO法人を記載してください。
 ※事業でない場合でも、NPO法人と関わりがある場合はその内容を記載してください。
 ※準備会メンバー以外の課等で、NPO法人と関わりがあるものがあれば記載してください。（情報元は言いません）

図表 情報交換・共有シート（情報整理後・要所抜粋）

事業名等	担当課	新・既	種別	対象者	形態	委託先	事業内容
広報いせ 発行事業	広報広 聴課	既存	周知・ 啓発	市民	直営	編集・印刷は 千巻印刷産業	行政情報や市民活動情報などの 発信
CATV 広報いせ 放送事業					委託	ZTV	行政情報や市民活動情報などの 発信
インター ネット情 報発信事 業					委託	フューチャー イン（HPの み）	ホームページ、SNSでの情報 発信
各種相談 事業					委託	弁護士など	法律相談・人権相談・行政相談 など 【想定できる事業発展】 相談の中で浮き彫りとなった 課題の解決に向けた適切なつな ぎや、窓口での就労等に関する 案内
産前・産 後サポ ート事業	健康課	既存	周知・ 啓発	市民（産 前産後の 母親）	直営	—	産前産後の母親が、気軽に立 ち寄って相談ができる拠点とし て「ママ☆ほっとテラス」を設 置。 【想定できる事業発展】就労等 に関する案内や適切な関係機関 へのつなぎ
自殺対策 （こころ の健康づ くり）				市民			パネル展示、リーフレットや パンフレットの設置、命 やうつ病・生きる支援につなが ることの啓発を実施。 （自殺予防週間（9/10～16）、自 殺対策強化月間（3月）におけ る啓発） 【想定できる事業発展】啓 発内容に就労支援を追加

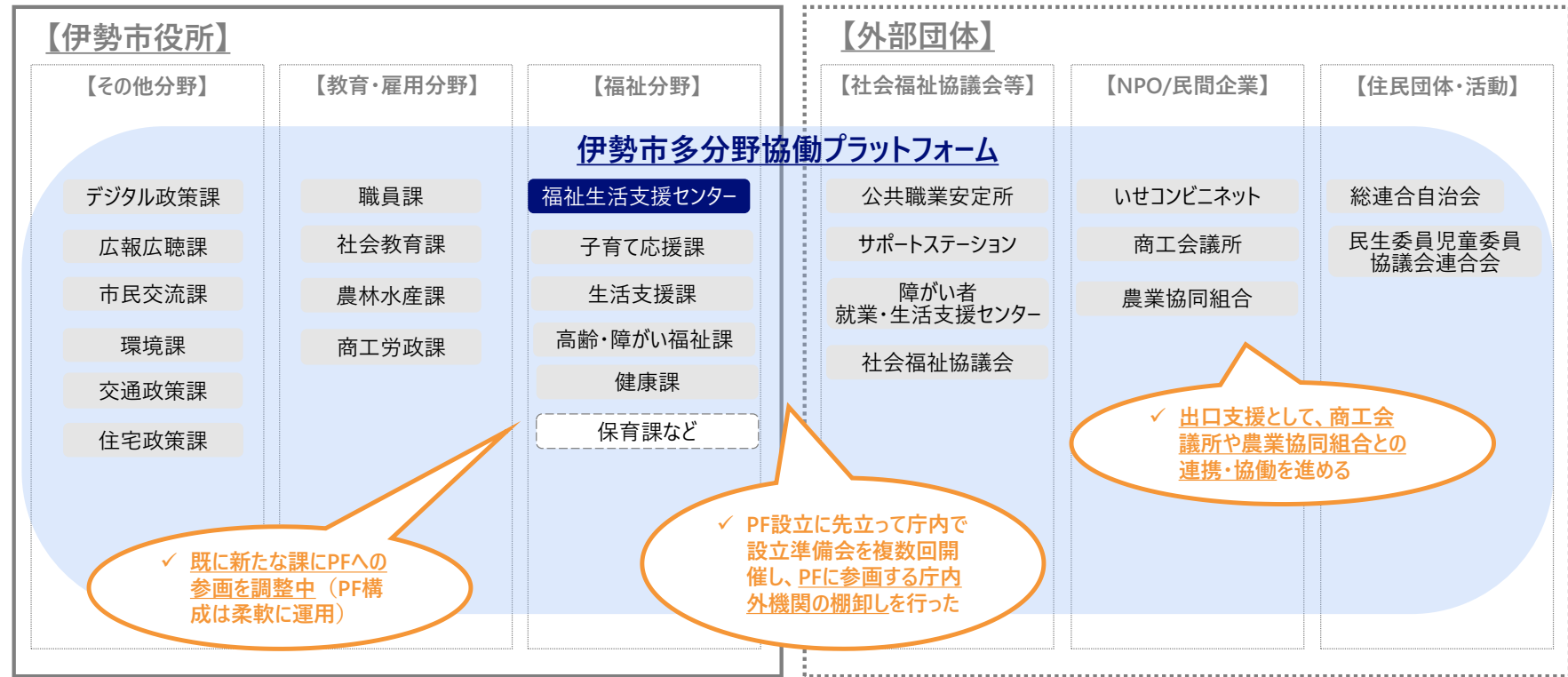
2. 連携 PF イメージ

5. 連携プラットフォームのイメージ図



多分野協働による分野横断的な支援の創出

- ✓ 周知・啓発：市民・関係機関・企業への周知
- ✓ 社会参加：気軽に集まることができる地域の居場所の充実
- ✓ 就労支援：一人ひとりに合わせたオーダーメイド支援



◆詳細情報：連携プラットフォームの内容説明

(前頁の「連携プラットフォームのイメージ図」に対応)

【取り扱う問題】

- ・ 市長の発案から、コロナ特例貸付の対象者について伊勢市社会福祉協議会の協力のもと分析した結果、30～50歳代の単身者が多くを占めることが判明した。誰にでも起こり得る「働きづらさ」という悩みを抱えた人を対象とすることで、支援を必要としている人々に適切につながる状態を目指す。
- ・ 働きづらさを抱えた人を発見した際に、庁内はもちろん庁外も含め連携し、適切な支援につながる体制を検討した。支援内容としては、社会参加のきっかけづくりから就労までスモールステップかつオーダーメイドの支援を実現すべく検討を実施する。

【背景・方針】

- ・ 令和3年4月1日からの重層的支援体制整備事業の実施にあたり、福祉生活相談センター主導で、庁内全体のヨコ連携をより深めるための庁内関係部署を集めた連携会議を行っていた。今回のPFは、上記庁内連携会議が直接発展したものではないが、各課の主体性を引き出すことの重要性や横断的な会議の実施における課題・改善点を抽出することができていた。

3. 試行的事業一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業のポイント・工夫		<ul style="list-style-type: none"> PF に参画すべき団体・機関について、庁内の PF 設立準備会で棚卸・整理したうえで PF を立ち上げることができ、孤独・孤立に関する相談先をまとめたサポートリストの作成や、啓発動画を作成することで、広く市民に周知し、必要な支援に早期につながる仕組みが出来た。 			
事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先	
① サポートリストの作成・製本・配付	【事業概要】 <ul style="list-style-type: none"> 孤独・孤立に関する相談窓口等をまとめたリストの作成 【制作物内容】 <ul style="list-style-type: none"> A4×8 枚(表裏)のカラー印刷されたパンフレット 【部数・配付方法】 <ul style="list-style-type: none"> 広報いせに併せて全戸配布(約 55,000 部) 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が孤独・孤立に陥らないよう、支援が必要な人に必要な支援が届くような地域共生社会を実現する 	✓ 令和 5 年 1 月初旬から 2 月下旬まで	千巻印刷産業	
成果検証結果	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数、市 HP へのアクセス数の増加 				
② 啓発動画の作成・配信	【事業概要】 <ul style="list-style-type: none"> 孤独・孤立に関する理解を深めるための啓発動画を作成し、YouTube やケーブルテレビにて配信する 【制作物内容】 <ul style="list-style-type: none"> 15 秒、30 秒の 2 パターンの動画 【配信媒体】 <ul style="list-style-type: none"> YouTube、ケーブルテレビ、SNS(Google、Instagram)等で広告配信 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の方も声をかけ、受け止めることのできる社会認識を醸成する 孤独・孤立に関する理解を深め、企業や地域住民組織による新たな支援の構築・拡充につなげる 市広報物に目を通さない若年層にもアプローチする 	✓ 令和 5 年 1 月初旬から 2 月下旬まで	コミュニケーションサービス	
成果検証結果	<ul style="list-style-type: none"> 有相談件数、動画閲覧数、市 HP へのアクセス数の増加 				
③ PF 設立記念講演会の開催	【事業概要】 <ul style="list-style-type: none"> 孤独・孤立対策や PF の意義を周知し、PF 参加機関の理解度を高める 【内容】 <ul style="list-style-type: none"> 山本室長による孤独・孤立対策の背景や意義について 1 時間程度講演 【参加者】 <ul style="list-style-type: none"> PF 参加機関等の関係者約 140 名程度参加 	<ul style="list-style-type: none"> 市職員や PF 参加機関職員等の、孤独・孤立に関する理解・認識を深め、PF での検討を踏まえた支援体制の構築につなげる 	✓ 令和 5 年 1 月 31 日(火) 13:30~15:00	伊勢市が主体となって実施	
成果検証結果	—				

7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙

- 福祉生活相談センターを、健康福祉ステーション(伊勢市駅前ビル)に移転し、利便性を高め、市民等が集まりやすい場として進化させるとともに、総合相談体制を強化する。
- 働きづらさを抱えた人を対象とした「孤独・孤立対策推進事業」を新たに開始し、PF での検討を踏まえたうえで、相談支援・社会参加・就労支援等を実施する。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 市長が定例記者会見で「PF の立ち上げ」「伊勢つながりサポートリスト」「啓発動画」の作成等を公表し、新聞(伊勢・毎日)や Yahoo!ニュース等のメディアで取り上げられた。

◆詳細情報：試行的事業の実施結果

【サポートリストの作成・製本・配付】

- ・ 孤独・孤立に関する相談窓口等をまとめたリストを作成。
- ・ A4×8枚(表裏)のカラー印刷されたパンフレットで、市の広報紙「広報いせ」に併せて全戸配布(約55,000部)。

図表 「伊勢つながりサポートリスト」



【リストの使い方】

伊勢市にお住まいの方が利用できる相談機関を、内容ごとに一覧にまとめました。相談分野をマークで示しています。相談先をさがすときの参考にしてください。

お金・住まい ⇒ **お金・住まい** 仕事 ⇒ **仕事** 子ども・子育て ⇒ **子ども・子育て** 学校・教育 ⇒ **学校・教育**
 健康 ⇒ **健康** 高齢介護 ⇒ **高齢介護** 障がい ⇒ **障がい** 人間関係・その他 ⇒ **人間関係・その他**

受付日時は、特に記載がない場合、祝日・年末年始は休みです。
予約のマークのある相談先へは事前に電話で予約が必要です。
 どこに相談したらよいか迷ったら **伊勢市福祉生活相談センター**へ。

お金・住まい

相談内容	相談・連絡先	受付日時	相談先所在地
お金・住まい 仕事 経済的な困りごとの相談	伊勢市生活サポートセンター「あゆみ」 ☎0596-63-5224	月曜日～金曜日 8:30～17:15	伊勢市八日市場13-1 伊勢市社会福祉協議会 中部支所内
	伊勢市生活支援課 ☎0596-21-5556	月曜日～金曜日 8:30～17:15	伊勢市岩淵1-7-29 市役所東館2階11番窓口
お金・住まい 予約 生活保護の相談 多重債務についての相談	伊勢市消費生活センター ☎0596-21-5717	※認定司法書士による 原則、第3木曜日 9:30～11:30	伊勢市岩淵1-7-29 市役所東館3階306番窓口
	伊勢市消費生活センター ☎0596-21-5717	月曜日～金曜日 9:00～12:00、 13:00～16:00	伊勢市岩淵1-7-29 市役所東館3階306番窓口
伊勢市住宅政策課 市営住宅☎0596-21-5596 空家☎0596-21-5597	月曜日～金曜日 8:30～17:15	伊勢市岩淵1-7-29 市役所本館4階401番窓口	

仕事

相談内容	相談・連絡先	受付日時	相談先所在地
仕事 仕事探しに関する相談	ハローワーク伊勢 (伊勢公共職業安定所) ☎0596-27-8609	月曜日～金曜日 8:30～17:15	伊勢市宮後1-1-35 ミライSE 8階
	いせ若者就業サポート ステーション ☎0596-63-6603	月曜日、火曜日、木曜日～土曜日 9:00～18:00 ※水曜日が祝日の場合は翌平日も休み	伊勢市岩淵1-2-29 いせ市民活動センター北館 (ティアープラザ) 1階
仕事 働きづらさを抱えた人の就労に関する相談(年齢不問)	特定非営利活動法人 いせコンシェルジュ ☎0596-65-6114	月・火・木・金曜日 10:00～16:00	伊勢市本町5-3 浦田ビル2階
仕事 障がい・重病の人に關する就労相談	障がい者就業・生活支援センター「いこい」 ☎0596-65-7178	月曜日～金曜日 9:00～17:00	伊勢市宮後1丁目13-5

【啓発動画の作成・配信】

- ・ 孤独・孤立に関する理解を深めるための啓発動画を作成し、YouTube やケーブルテレビにて動画を配信した。
- ・ SNS 等の計 8 種類の媒体を活用し、啓発動画に関する広告を配信することでクリック数を調査。
 - 総表示回数は 4,287,161 回、クリック率は 0.53% であった。よって、当広告によって伊勢市役所ホームページが新規に獲得したアクセス数は 20,857 件であった。
 - ◇ 最も表示されたのは、「Yahoo (ディスプレイ)」で約 200 万回表示された。
 - ◇ クリック率が最も高かったのは、「Google (リスティング)」で 4.64% であった。
 - ◇ 最も平均クリック単価が安価だったのは LINE (AdsPlatform) の 16 円/クリックであり、Yahoo (ディスプレイ) の 19 円/クリックが続いた。

図表 啓発動画の内容



図表 啓発動画の配信による媒体別リーチ数

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム事業啓発動画作成等業務委託 SNS広告レポート

広告媒体	表示回数	クリック	クリック率	平均クリック単価	費用
	Impressions	Click	CTR	CPC	Cost
Google (リスティング)	23,032	1,063	4.64%	¥94	100,301
Yahoo (リスティング)	133,699	1,719	1.30%	¥59	100,749
Google (ディスプレイ)	693,024	3,743	0.62%	¥39	100,189
Yahoo (ディスプレイ)	2,070,907	5,373	0.26%	¥19	100,697
LINE (AdsPlatform)	960,602	6,726	3.79%	¥16	101,621
Youtubeインストリーム広告	63,478	310	1.28%	¥292	100,588
twiier (プロツイート)	210,365	492	0.24%	¥214	101,782
Facebook	132,054	1,431	1.07%	¥78	100,000
合計	4,287,161	20,857	0.53%	¥63	805,927

【PF 設立記念講演会の開催】

- ・ 孤独・孤立対策や PF の意義を周知し、PF 参加機関の理解度を高める場として開催した。ハローワーク、商工会議所、農業協同組合、NPO 法人、社会福祉協議会、自治会、民生委員、市職員等、PF 参加機関等の関係者約 140 名程度が参加した（同日、第 1 回 PF 会議を開催）。
- ・ 冒頭の市長挨拶においては、コロナ禍を受けた生活福祉金の特例貸付の利用者の 6 割が 30～50 代の単身者であることが取り上げられ、孤独・孤立対策に取り組む意義が強調された。
- ・ 山本麻里氏（内閣官房孤独・孤立対策担当室長）より、孤独・孤立対策の背景や意義について 1 時間程度ご講演いただいた。山本室長のご講演においては、会社の上下関係のような垂直的關係性が崩れつつある今、それに代わる水平的つながりを構築する重要性が説かれた。

図表 PF 設立記念講演会の様子



図表 PF 設立記念講演会講演資料（抜粋）

孤独・孤立対策の重点計画 改定のポイント	
孤独・孤立対策の基本理念等を追加	令和 4 年 12 月 26 日 孤独・孤立対策推進会議決定
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後、単身世帯や単身高齢世帯の増加が見込まれる中で、孤独・孤立の問題の深刻化が懸念される新型コロナウイルス感染症拡大が収束したとしても、社会に内在する孤独・孤立の問題に対し、政府として必要な施策を着実に実施 ✓ 人と人との「つながり」を実感できることは、孤独・孤立の問題の解消にとどまらず、社会関係資本の充実に資するという考え方の下で、施策を推進 ※ 国連の「世界幸福度報告」によると、近年、我が国は「社会的支援（困った時にいつでも頼れる友人や親戚はいるか）」など社会関係資本に関連する指標が G7 の中で下位グループに位置している ✓ 日常生活の場である地域など社会のあらゆる分野に孤独・孤立対策の視点を入れ、すべての人のために、広く多様な主体が関わりながら、人と人との「つながり」をそれぞれの選択の下で緩やかに築けるような社会環境づくりを目指す 	
孤独・孤立対策の更なる推進・強化	
<p>(1) 孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 孤独・孤立の実態把握を推進【孤独・孤立の実態把握、こども・若者の行動・意識に関する実態把握、在外邦人の実態把握等】 ✓ 令和 3 年実態調査結果を踏まえ、「予防」の観点からの施策を推進 ✓ 孤独・孤立への理解や機運醸成のため、周りの方が当事者への気づきや対処をできるための環境整備等を推進 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム分科会の検討成果に沿って具体的な取組を進める【声を上げやすい・声をかけやすい環境整備等】 <p>(2) 状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一元的な相談支援体制、相談と支援をつなぐ体制の本格実施に向けた環境整備に取り組む【一元的な相談支援体制の推進】 <p>(3) 見守り・交流の場や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 日常の様々な分野における緩やかな「つながり」を築けるような多様な「居場所」づくりや「居場所」の「見える化」、市民の自主的な活動やボランティア活動を推進【地域における孤独・孤立対策のモデル構築、こどもの居場所づくりに対する効果的な支援方法等の検討、スポーツに魅力がアクセスできる環境の整備充実等】 <p>(4) 孤独・孤立対策に取り組む NPO 等の活動をきめ細かく支援し、官・民・NPO 等の連携を強化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地方における連携プラットフォームの形成に向けた環境整備（「水平型連携」を目指す）【地域における孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの整備の推進】 ✓ 官・民の連携基盤の形成に当たって、官・民の取組の裾野を広げ、連携に参画する民の主体の多元化を図る 民間企業が事業活動を通じて孤独・孤立対策に資する取組を行う形で連携に参画を推進【孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの運営】 	

4. 連携PFの行程および実務上の留意点		
(ア) 初期段階		
①	主担当部署の設定	<p>■ <u>短期間で実行へ移すべく、市長がリーダーシップを発揮</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 重層的支援体制整備事業の担当である福祉生活相談センターが PF の主担当を務めた。 市長の強いリーダーシップにより、2022 年の夏ごろから急ピッチで孤独・孤立対策 PF 構築の検討(事業申請検討)が開始された。
②	地域の現状把握	<p>■ <u>定期アンケートや過去の支援施策の対象者を分析し、支援対象者を具体化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ひきこもりやヤングケアラー等に対して定期的なアンケートや追跡調査を実施している。 コロナ特例貸付の対象者を分析した結果、30～50 歳代の単身者が多くを占めることが判明した。
③	連携 PF の運営形態の検討	<p>■ <u>過去の会議体の経験を踏まえ、連携部署の主体性を引き出すよう工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年 4 月 1 日からの重層的支援体制整備事業の実施にあたり、福祉生活相談センター主導で、庁内全体のヨコ連携をより深めるための庁内関係部署を集めた連携会議を開催してきた。 一方で、関係部署間に課題の認識の度合いにムラがあったため、目線が全体で揃っておらず、連携会議自体は具体的な支援策の実行には結びつきづらかった。そこで今回の PF の設立にあたっては、この経験から各課の主体性を引き出すことを目指した。
(イ) 準備段階		
①	連携 PF の企画・設計	<p>■ <u>プラットフォーム立ち上げ初期のターゲットを明確化することで孤独・孤立対策のイメージを庁内外により共有しやすくした</u></p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ特例貸付対象者の分析結果を受けて、PF の支援の対象者を当初に検討していた「ひきこもり・ヤングケアラー」ではなく、「働きづらさを抱えた人」とし、継続的な支援について検討していくこととした。 PF への関わり方に対して各関係課がより具体的なイメージを持つことができるよう、PF 立ち上げ時のターゲットを明確化した。
	主要機能・施策	<p>■ <u>プラットフォームに巻き込む関係課に団体・事業の棚卸しを依頼することで当事者意識を醸成</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 庁内各課の主体性を引き出すため、孤独・孤立対策に関連する庁内既存事業や外部団体の洗い出しを各課に依頼した(福祉生活相談センターは追加のアイデアだしや取りまとめを実施)。
②	連携 PF 参加者の検討	<p>■ <u>プラットフォームの構成は立ち上げ時が完成形ではなく、今後柔軟に組み替えていく</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 時間的制約もあり、福祉生活相談センター主導で庁内の参画すべき課が選定された。 今後 PF を実際に運用しながら、適宜参画すべき課を組み換え、柔軟に対応していく方針としている。
	外部団体	<p>■ <u>NPO・社協だけでなく、孤独・孤立対策(特に働きづらさを抱えた人)の出口支援の提供先となりえる商工会議所等とも連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> これまでも事業を委託してきた NPO 法人いせコンビニネットや、社協等だけでなく、出口支援を担う商工会議所、農業協同組合、自治会、民生委員(働きづらさを抱えた人のボランティア体験、職場見学、就労体験等)や、就労支援機関であるハローワーク、サポステ等を候補として選定した。

(ウ) 設立段階		
①	連携 PF 内での 連携・協業	<p>■PF 参加者で問題認識を共有し、取組機運を醸成。洗い出した情報を共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回 PF 会議に併せて、市長による課題意識の共有や、有識者(山本孤独・孤立対策担当室長)による講演会を開催し、孤独・孤立に係る認識の共有、理解の醸成を図った。 ・ PF 会議において、福祉生活相談センターが孤独・孤立対策に関する趣旨説明を行い、事前に洗い出した庁内外の孤独・孤立対策関係事業や NPO に関する情報を、PF 参加機関職員等に対して共有している。
②	域内住民・関係団体 への情報発信	<p>■あらゆる世代への情報発信を狙いメディアミックスを実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市長定例記者会見において、市長が PF の立ち上げ等を公表し、新聞(伊勢・毎日・中日)や Yahoo!ニュース等のメディアで取り上げられることとなった。 ・ 試行的事業として作成した「伊勢つながりサポートリスト」を広報いせの配布に併せて全戸配布し、相談のきっかけづくりを行った。 ・ 試行的事業として作成した啓発動画を YouTube、ケーブルテレビ、SNS 等に広告配信することで若年層を含む広い層へ周知した。
③	優先的に取り組む 課題・今後の方針	<p>■孤独・孤立対策の拠点となる福祉生活相談センターを駅前に移転し、利便性を高めるとともに市民が集まり、相談しやすい場所として進化させていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉生活相談センターを健康福祉ステーションに移転し、利便性を高め、市民等が集まりやすい場として進化させるとともに、総合相談体制を強化する。 ・ PF 参画機関の増減について継続的に検討(庁内の一部の課には、PF への参画を打診中)する。 ・ 働きづらさを抱えた人を対象とした「孤独・孤立対策推進事業」を新たに開始し、PF での検討を踏まえたうえで、種々の支援を実施する。

コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

NPO いせコンビニネット

- ・ いせコンビニネットは伊勢市に根差した NPO であり、健康や社会教育、障害者の自立支援などに関する地域の諸問題を解決し、地域振興を図ることを目的として活動している。
- ・ 自立が困難な若者を総合的に支援する「いせ若者就業サポートステーション」の運営や、貧困などさまざまな理由で就職が困難な人を対象とした「就労準備支援事業」等にも取り組んでいる。

🔔 困難を抱えた人を制度の狭間に取り逃さない

- ・ 困っている人、困難を抱えている人にとって、制度は関係ない。制度の間隙があることによってこれまで助けられなかった、助けにくかった人々に対して、今回立ち上げた PF は潤滑油のような重要な役割を担っていくことになるだろうと期待している。

🔔 中長期的な支援を可能とすることが重要

- ・ ひきこもり等の困難を抱えた方々は短期間でその困難を解決することは難しいケースが多い。数年単位のロングスパンで支援していく必要がある。PF の立ち上げによって、中長期的に継続可能な支援の枠組みを作ることができれば、より良い活動につながるのではないかと。

🔔 直接的でない情報発信も織り交ぜて実施していく

- ・ 特に若者に対しては、直接的に就労支援や孤独・孤立対策を打ち出すよりも、就労支援カフェの料理や収穫した農作物の写真を投稿した方が反響をいただくケースがある。支援対象となる方をイメージして SNS 等を活用した効果的な周知を行っていくことが重要ではないかと。

5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	議題
1	11/29(火) 15:30-17:00	伊勢市	事業説明、今後のスケジュール共有
2	12/9(金) 10:20-11:00	伊勢市 動画作成事業者	試行的事業の仕様について
3	12/13(月) 15:00-16:00	伊勢市	試行的事業の仕様について
4	12/22(木) 10:00-12:00	伊勢市	第 2 回 PF 準備会議
5	12/26(月) 11:00-11:30	サポートリストデ ザイン制作、製本・ 印刷業者	試行的事業の仕様について
6	1/31(火) 10:00-15:00	伊勢市	第 1 回 PF 会議、設立記念講演会
7	2/9(木) 10:30-12:00	伊勢市	ヒアリング
8	2/9(木) 14:00-15:00	いせコンビニネット ト	ヒアリング